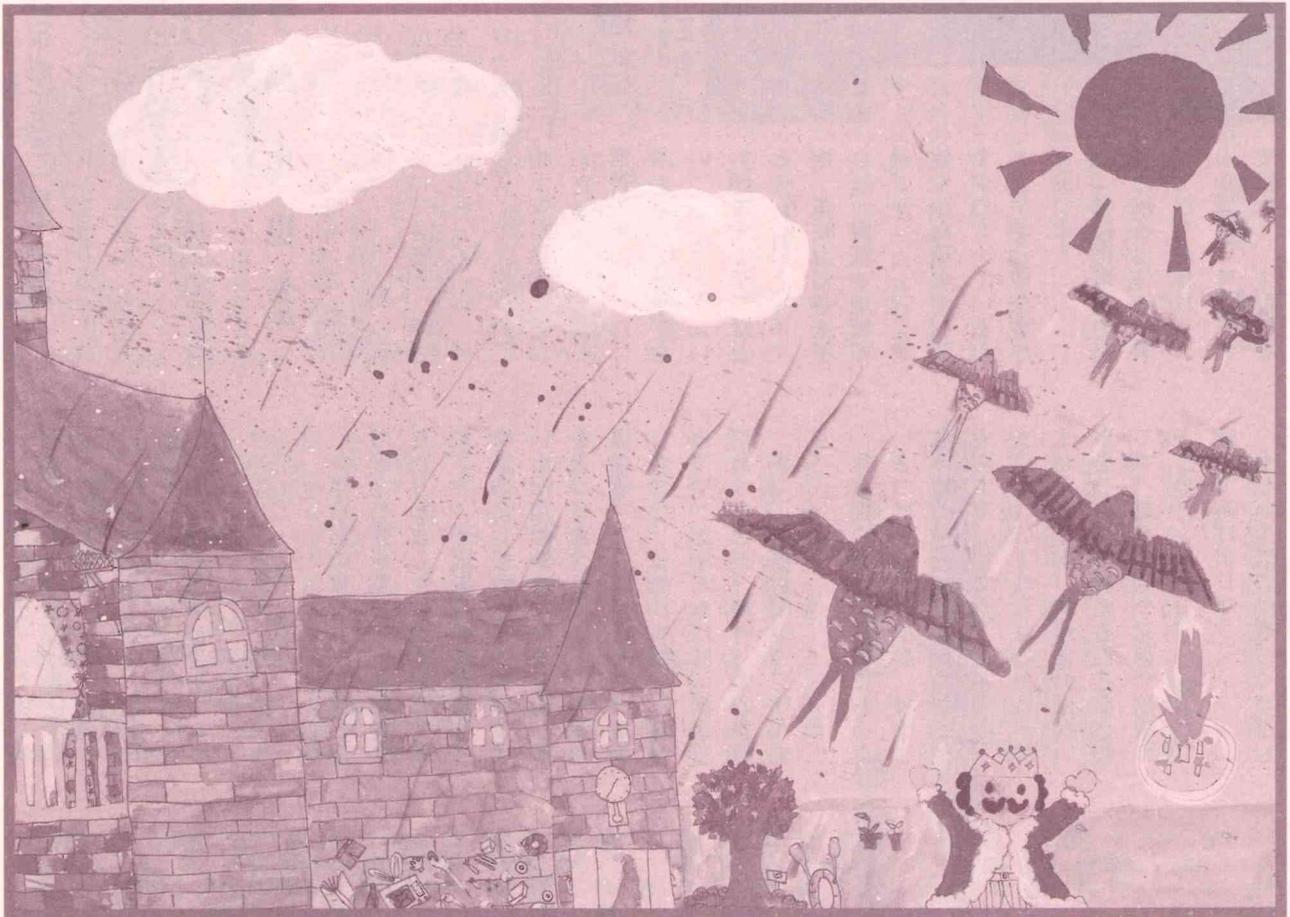


新発田青少年育成市民会議だより

はばたき

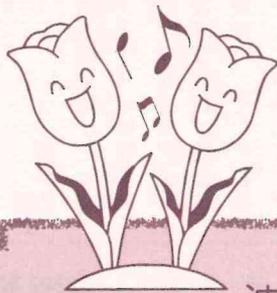
21世紀も市民みんなで手をたずさえて



御免町小学校四年 平野志織

太陽

川東中学校 3年
佐久間 深雪



今日も

太陽が昇って

みんなが目覚める

楽しいこと

嬉しいこと

悲しいこと

いやなこと

ぜんぶ太陽につめ込んで

真っ赤な光

放ちながら

沈んでいく

そして明日の朝

また

太陽は昇る

発行 新発田青少年育成市民会議
 事務局 新発田市青少年健全育成センター
 住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
 電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

青少年健全育成講演会(平成十五年一月十一日)

青少年にとつて 魅力ある地域とは

講師 文教大学人間科学部教授
野島正也 先生

人間科学部には、心理学(人の心の中)、社会学(人と社会)、教育学(生涯の発達)という三つの柱があります。

ジャーナリズムがとらえた子

「青少年にとって 魅力ある地域とは」

講師 文教大学人間科学部教授
野島正也 氏



う。家庭では家族のふれあいを通して、基本的な生活習慣を習得し、地域では「大人が変われば、子どもも変わる」という青少年健全育成のスローガンのように、大人が「こうやるんだ」と言つて、子どもと一緒にやりましょう。

少年自然の家では、年代の違う子ども達を集めて、体験をさせたりしました。火をおこす時に、マッチと新聞紙を用意してあるのに、それをどう使つてよいかかわからなかつたし、魚をとつて食べる時に、二時間も魚を焼いていた子どももいたりしました。しかしやれるところまでやつた子どもには、満足感がありました。興味・関心を持つ事で、知識が広がつて行きま

す。社会性の基礎の習得であるあいさつは、自然に学び、マナーは体験の中で知つて行くことが大切です。私の大学の学生でも、上座について教えないとわかりません。教科書にはない事をその場で教えることが必要です。親や先生や兄弟や地域の人を受け入れ、支え、励まし、認めてあげましょう。

楽しい生活の環境づくりとして、活動の楽しさにはクラスの雰囲気や楽しい体験があり、や

る時にはやる。休憩する時には休むという適度の緊張とリラックスのバランスが大切です。

仲間がいる楽しさは、ぐちを聞いてくれる人がいることであり、評価がある楽しさは、ほめてくれるかどうか、認めてくれるかどうかという自己達成感や他からの評価です。

公園デビューという言葉があります。大人の地域デビューにはキャッチボールの妙味があります。キャッチボールは誰かがボールを投げなければ始まりません。地域では、それぞれ活動への願いをよく吟味して、まず「私、やります。」の一言が必要なのではないでしょうか。

子どもが育つ場には、顔が見える関係でつながりましょう。子どもは地域の宝であり、宝を生かす知恵で、人の「元氣」はつながります。

大人も元氣になつてゆく、いろいろなことに関わつてゆくことによつて、その姿勢を子どもに見せてゆき、大人にとつても楽しいことが大切なことだと思います。これは、あなたのためだというバリウム言葉が見えれば、子どもは引いてしまいません。

大人も子どもも、元氣になつてゆく空間を作ることが大切です。

青少年育成に 全力投球で!!

(二市北浦青少年育成市町村民
会議連絡協議会の報告)

副会長 森田 国昭

先日、豊栄市で前記の会議が行われ、五回目の今年は、会長、事務局約二十名が参加。学校外活動を含む課題に資料提供としての熱心な意見交換でした。

例えば豊栄市では、市長を先頭に新潟市との合併を前提に各中学校区単位で、地域コミュニケーションを展開中。予算の少ない町も知恵を出しての子供行事を組み、頑張っている事例などです。

本協議会は、各市町民会議の組織運営や活動内容の見直しを図るとともに充実・強化に向け取り組んでおります。



お父さん、お母さん もう一度振り返って

新発田市中央町 馬場医院 馬場 賢一

親は「まさか」と言い、世間は「またか」と言うような時代です。

1. 枝葉のことで騒ぎ立てない、正しい知識と心を親が持つていてほしい。
2. 母乳で育ててほしい。
3. 育児の時間を面倒がらないでほしい。
4. 子どもの意志を無視して抱いたり連れて歩かないでほしい。
5. 薄着になれさせてほしい。
6. 派手な衣服や玩具を与えすぎないでほしい。
7. 子どもを一人で食事させないでほしい。
8. 失敗体験を恐れないでほしい。
9. 「ダメ」つまり禁止のみのしつけはしないでほしい。
10. どうすればよいのか手がかり

11. 考えさせて親は待とう。子どもが行動するまで手を出不いでほしい。
12. 成功したら、ほめて励ましてやってほしい。
13. 自分の力で出来たと思わせてやってほしい。
14. 子どもの話は終わりまで明るく聞いて、質問には分かる限り答えてやってほしい。
15. 兄弟でも比較しないでほしい。
16. 礼儀、ルール、迷惑は厳しくしつけてほしい。
17. 友達とは戸外で好きなほど遊ばせてやってほしい。
18. 親の好み（虚栄も多いが）を押しつけないでほしい。
19. 額に汗して体を動かす尊さを身につけさせてほしい。
20. 家庭の温かさや厳しさを幼い時から肌にたたきこんでほしい。
21. 子どもの秘密には立ち入らないでほしい。子どもの友達は大勢にしてほしい。
22. 鍵のかかる部屋は、たとえば射撃を覚えてからにしてほしい。
23. 親は子どもにメス、オスを

感じさせないでほしい。
24. 親の失敗体験、恋愛体験などを明るく話せる家庭であってほしい。

25. 老人をいたわり、助ける家庭であってほしい。

さあ、どうでしょう。25項目のうち三分の一以上、思い当たることがあったら、父として母

じじばばの座

新発田市御幸町

横山弘司郎

『思子等歌（一首）山上徳良』

万葉集の「瓜食めば 子ども思ほゆ 乗食めば まして徳ば

ゆ……」（長歌。後半部分、文末に）そして反歌の「銀も 金も

玉もなにせむに まされる宝子にしかめやも』

この歌の解釈・価値を巡って

学者の方々は種々言っておられますが、私はやはり道学者然として、親、しかも父親が熟っぽく歌った子どもへの思いを鑑賞させたものでした。昭和四十三年。ある中学校で三年生と国語を学んでいた時の教材でした。

さて、原稿依頼を受けてハタと困りました。筆が進まないのです。私の齢は七十七。この頃書くことは趣味・地域・健康・随想などと気張ってみても、所詮思い出話にしか過ぎません。

としては失格ですよ。

今、子どもの基礎体力が落ちて

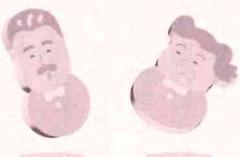
ています。他への思いやりが不足していると言われています。

もう一度、家庭・学校・社会が

一体となって、子どもたちの心

と体を見守っていかねければなら

りません。



て、誕生日のお祝いの増額などになるのでしょうか。
そうです。私の家は、平和な三世代の六人家族。でも夕食時の会話は、若手夫婦が一番仲良く盛んに話しており、孫二人がボソボソ何やら。じじばばは聞くともなしにテレビに目をやり、やがて終わります。

だから、じじばばは誕生日やらの、家庭のお祝い日が楽しみです。話題が一点に集中し、お祝いはじじばばからのが一番多くて、感謝の言葉がこの日だけは出ます。必ず、ある意味で主役になれる日なのです。だから老妻は、子ども・孫の誕生日の印を曆に何回もつけています。

「……まして徳ばゆ 何処より来りしものぞ 眼交にもとな 懸りて 安易し寝さぬ」
忙しくて、子育てに心が及ばなかつた現職を退き、今、孫を観る目は、憶良と同じで、夜も安眠出来ない。わかります。

現職のとき私は、人々に「子どもが転んだ時、すぐ走り寄って抱き抱えるのが母親で、しっかり見て大丈夫と思つたら『一人で立て』と毅然と言うのが父親だ」とお話したものでした。

私は今、やはりじじでしかなく孫付き合いを楽しんでいきます。



有効に使われた

特別活動助成金

地域育成協議会の活性化を図るため、4つの地域青少年育成組織にお願いして活動を強化していただきました。実り多かつた活動内容を報告いたします。



佐々木地区青少年育成会議
会長 渡辺 和昭

三年前、私はPTA活動をきっかけに佐々木コミュニティの方々と共に、地域活動の話や、色々な地域行事に参加したりする事が出来ました。その頃、私達もPTA活動や青少年育成会活動にとどまらず、家庭や学校、地域が一体となつて佐々木地区全体が楽しめる行事をやろうと呼び掛けたのが始まりでした。地域の方や学校の先生方に相談したと

佐々木地区
みんな主役の盆踊り大会
「第3回 佐々木コミュニティ盆踊り大会」

ろ、たまたま佐々木小学校では、チャレンジ21教育推進運動の一環で、盆踊りを取り入れた授業を行っているという事もあり、盆踊りに決定し、すぐに準備委員会を発足しました。

佐々木地区の中央に流れている太田川を挟んで南側が「サイサイ」、そして北側が「佐々木甚句」。双方の伝統的な盆踊りを中心に、回を重ねる毎に盆踊りだけにとどまらず、小学生や中学生達が自分達なりに考えた企画（イベント）なども同時に行える「みんな主役の盆踊り大会」を開催する事が出来ました。

今年度は、小学生「人形つりゲーム」、中学生「子ども太鼓、キックターゲット」を行いました。参加者も第一回は七百名位でしたが、三回目には九百名を超えている人で大変盛り上がり、子ども達の嬉しそうな笑顔、おじいちゃんやおばあちゃんの楽しそうな踊りを見て、実行委員会のメンバーも大・大満足でした！

今後このような歴史的文化を継承しながら、新しい発想を取り入れ、「喜び」と「感動」が生まれる盆踊り大会、そして次の人材育成につながる青少年育成を目指し、私を含め実行委員が丸となつて努力していきたいと思えます。

七葉地区
七葉太鼓
「子ども達と通しての地域づくり」

加治地区育成協議会
会長 村田 政昭

公立学校週休二日制が実施され、様々な議論はありますが、子ども達が校門を出て地域の中で過ごす時間が多くなることだけは確かななつてきました。

そんな中、子ども達の行動が多様化している事から子ども達の連体感、心の成長を促したいと加治地区では、誰でも参加できる環境としたい事があるという目標づくりの手助けになれないかと始めたのが七葉太鼓でした。同時に、今では一集落しか行われていない、盆踊りの太鼓を次世代に引き継ぎ、地域を盛り上げ、加治の伝統を作りあげていってほしいという願いをこめた活動です。

このようなことから十一月二



十四日よりスタートした練習は、七葉小学校、そして加治地区公民館等の場所を借り、毎月第四日曜日に行うこととなりました。

初め十三人からスタートした太鼓の練習も、日増しに参加希望者や問い合わせが増えてきています。

太鼓を通して対話が生まれ、子ども達にとつてやりがいのある楽しい時間となるよう、もつともっと大人の方、子ども達に参加してもらい、一人ひとりが積極的に地域づくりに参加できるように健全育成を目指していきたいと考えております。

始まったばかりでいろいろ課題も多い中、皆様のご協力とご理解に感謝し、共に喜びを分かち合える環境づくりに今後発展していけたらと考えています。



外ヶ輪小学校区青少年育成連絡会

会長 高橋 大作

科学技術の急激な進歩によつて、子ども達は今、膨大な量の情報を様々な手段で手軽に手に入れることが出来ます。しかし、機械だけによる一方的な情報提供は知識を与えても決して豊かな人間性は育てません。

どうしても受身一方になりがちなテレビや映画やビデオ鑑賞などと違って、読み手と聞き手がお互いにコミュニケーションをとりながら進めるこの会は、子ども達が世界の昔話や名作童話に親しむとともに、幼い心に爽やかな感動を与え、豊かな情操を育むことを目的としています。

読み手には緑町在住で新発田レクリエーション協会の淡路勲氏をお願いし、校区の各ブロックでPTAや子供会の活動などと合わせて実施できるように計画しました。対象は幼稚園・保育園児から小

学校三年生位までですが、もちろん保護者も同伴可能としています。

二月現在の実施状況は以下のとおりです。

十二月十四日(土)

外ヶ輪小学校合同学習室

一月十八日(土)

大手町いきいき館

二月十五日(土)

中央町ふれあい会館

三月九日(日)

城北町集会所

それぞれ親子合わせて二十人から三十人位の参加者がありました。時間は一時間程度ですが、子ども達の素直な反応と輝くような瞳が印象的でした。

食物は体の栄養、読書は心の栄養といわれています。読書離れが憂慮されている昨今ですが、むしろ

が、むしろ普段の家庭での親子による読み聞かせがどんな行えるように、今

後は保護者向けの講習会なども行うことができたと思いま

す。



米倉小学校区青少年育成協議会

会長 諏訪 豊

本年度、米倉育成協では、東中学校区すこやかな子どもを育てる会との共催で、東中学校区の各学校と、その児童生徒及びPTAの交流と親睦を図るとともに、次代に引き継がれる交流行事の設定を目的として、「東中学校区すこやかタスキリレー」を十月十三日、赤谷線サイクリングロードを会場にして開催しました。

当日は天候にも恵まれ、各校から集まった保護者を含む約七十名の参加者が、駅東の日の出公園をスタートし、サイクリングロードを中々山まで走り、県道沿いに赤谷小学校グラウンドでゴールする、十区間約十四、五kmを一チーム十名の七チームが、それぞれのタスキをつなぎました。

今回は、低学年から中学生、保護者までが一緒に走るため、タイムレースではなく、各区间みんなが同じペースで走り



ました。そして全員仲良く元気に赤谷小へゴールしました。

閉会セレモニーの後、米倉ロードパークへと移動し、米倉コミュニティ主催の白が森登山道まつりとのジョイントで、アトラクションとして、米倉太鼓と松浦小ブラスバンド部の熱気溢れる演奏を聞いた後、おいしいおにぎりの特製の米倉汁をいただきました。

参加した子ども達からは、「上りがきつかったけど、みんなと一緒に楽しかった」とか、「よその学校の子と話をしながら走ったよ」など、普段とは少し違ったリレーを楽しそうに話してくれました。

この開催にあたり、各役員や各実行委員の皆さん、そして公安協四支会の方々、その他大勢の皆さんのご協力を得て、無事終えることができましたことを深く感謝いたします。

また、この試みが東中学校区の各校の心をつなぐ掛け橋となるよう、形態を変えても続けていってほしいと思います。

学校週5日制完全実施にともなう

土曜・日曜はこのように

学校週5日制における子ども達の土曜・日曜の過ごし方につきましては、これまで多様に議論され創意を尽くして実践されてきました。そして今、その成果を生かしより発展的に歩み進もうとすることが一層大切と言われます。

ここに、地域の実情を生かし、みんな一体となって生き生きと活動する取組みの一例を紹介します。

土曜・日曜の過ごし方

赤谷小学校校長 増田 進

学校週5日制が完全実施されて一年近くなります。赤谷小学校や赤谷地域の実態に応じた特色ある取組をすることが、効果的であると考えています。

さて、学校週5日制における学校の役割は、子どもに学習の基礎・基本を確実に習得させることと、家庭や地域での過ごし方の基本を指導することです。

赤谷小学校では、十三年度末に学校週5日制説明会を行い、学校の取組として次のことを保護者にお話いたしました。

- 土曜留守家庭及び祖父母との同居家庭の確認
- 地域の適切な遊び場所と危険場所の確認と指導
- 学校・家庭・地域が連携して事故や非行防止の指導
- 家庭や地域の一員として守るべきルールの指導
- 家庭や地域で目的をもって過ごすための指導
- 家庭での自主的な学習の進め方についての指導
- 家事の一部を受け持つことの指導
- 親子でやるPTA活動の充実

○市で催す体験活動等や施設の情報提供

当校では、条件を整え、子ども達が家庭や地域で主体的に活動できる能力の育成に力を入れています。主体性は、「生きる力」の根幹を成すものです。

一方、当校の子ども達の主な土曜・日曜の活動の場は「緑の少年団」への参加と親子PTA活動です。

保護者の皆さんは、それぞれ忙しい中を時間を作って活動に参加してくださっています。

以下、今年度の土曜・日曜の子どもの活動をあげてみます。

- 四月七日(日) グリーンコート及びピオで緑の羽募金
- 五月六日(日) 赤谷小グラウンド親子除草
- 六月九日(日) 市クリーン作戦赤谷地域美化活動
- 六月三十日(日) 地域子供会焼峰山登山
- 七月二十日(日) 赤谷大祭に鼓笛パレード参加
- 七月二十七日(日)・二十八日(日)

PTA親子キャンプ

○八月二十四日(土)

親子料理教室(赤谷小)

○九月二十一日(土)

緑の少年団グラウンドゴルフ

参加

○十月五日(土)

市民植樹祭参加(五十八公野)

○十月十二日(日)

緑の百年物語フェスティバル

参加

○十月十三日(日)

おわりに

本号では、各界の識者から、ご講演・ご寄稿を通して青少年健全育成に関わる貴重なご教示を沢山いただくことができました。感謝申し上げます。

複雑化する課題を整理し、健全育成の初志に立ち返った育成活動の推進に大切な指針となるものと期待しています。

興味いただけますならば幸いです。

また、新発田市青少年健全育成事業の本年度活動重点をふまえた特別対策事業実践地区の活動状況を載せさせていただきました。地区の皆様のご尽力に感謝し、その成果に学びつつ一層の発展を祈念します。

本紙上で、これまで数回にわ

東中地区すこやかタスキリレ
ー参加

○十月十四日(祝)

赤谷森林公園開放イベント参加

○二月十一日(祝)

地域子供会親子スキー教室

○二月十五日(日)

赤谷どんつき祭に灯籠作り

ふるさと赤谷地域や自然豊かな山あいの地域を舞台にして、

赤谷の子ども達の土曜・日曜の活動は展開されています。

たつて取り上げてまいりました学校週5日制における課題やそれに対する実践等に関し、今回は赤谷小学校からご示唆いただいたご寄稿をいただいております。今後の青少年健全育成に格段に資するものと大いに期待しております。

頃は芽生えの春。皆様のますますのご健勝を祈ります。

(文責 五十嵐)

編集部

五十嵐憲彌

伊保橋清子

志村美代子

皆川 早苗

